

ほうぼう

もう今年も六月になってしまいました。私は毎年の事ながら茫々とした日々の暮らしをしてしまっています。反省も実らず、一年の計画も順調に進んでいません。

皆様は如何でしょうか。清く正しく美しく」とても私の身に着くものではありません。私は正しい生活をしていると思っても実際は 目は見えても見間違い、

耳は聞こえても聞き間違い、口は口で言い間違い、すぐに間違いに気が付けば良いのですがやがてその間違いにも気が付かなくなり、ついに鼻を欠く事になるのです。

東北関東大地震に見舞われてから早三ヶ月、平成二十三年三月十一日は原子力の安心、安全神話が崩れた反省すべき日となりました。復興著しいとは中々いかない

ものです。被災者に届けてしかるべき義援金ですが六月二日号の週刊新潮に 千三百億円を届けぬ日本赤十字の怠慢」という記事がありました。我々の思いが我々の

思うように届くとは限らないのが世の中なのかと残念な思いです。福島原発関連の報道が毎日流されますが安心、安全を発言した時には想定外は無く、想定外と言う

言い訳は出来ないのです。災害は想定できるものでは無いからです。災害は起きて初めて分かるものでしょう。昔から災害は忘れた頃にやってくると言ひ伝えられてき

ました。又、災いは人間の力及ばないところだから大難は小難に小難は無難にと神仏に真剣に祈願したものです。現 在も私はそうであると思ひます。松原泰道上人の著作 「二期一会」の中に良寛禪師が山田杜臯とこうにおくった手紙の一節があります 災

難に逢う時節には、災難に逢うがよく候 死ぬ時節には死ぬがよく候 これはこれ、災難をのがるる 妙法に候」と、全く思ひ様である。今回の地震でも先人の言ひ伝え

を守りいち早く非難して全員を無事に守った保育園がありました。災難を災難とする人もいれば、災難を無難にした方もみえました。事故が起きた時は起きた時です。

問題を起す物があつたのは事実であり、作ってしまったのも事実なのです。末期癌患者の長谷川と言う写真家が 生きるとはすばらしい、死ぬこともまたすば

らしくありたい」と言われました。我々の生き様かくあれば当に悔いなし。

一休禪師は おさな子が くだいしだいに知恵つきて佛に遠くなるぞ 悲しき」と言ってみえますが我々の目、耳、鼻、口、の働きも自意識の作用に因りそれぞれ

の機能が間違いを起さない様に鍛錬しなくてはいけません。仏道の修行とおなじです。一休禪師の言われるように知恵もほつときますと自分に良い方に発達し続ける

のです。ですから幼少より道徳を教え、善悪の判断が出来るように指導しましょう。